

落合地区まちづくり懇話会“おちあい茶論”

日 時：平成 30 年 7 月 2 日（月）18 時～

場 所：落合公民館

テーマ：人口減少への対応

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 17 私どもは生まれたときから落合地区に住んでいるわけですが、人口減少ということについて、昨今この地区も当然高齢化・少子化というかたちで繋がっているわけですが、私はこれを食い止めると言っても 10、20 年は無理ではないかと思っています。そういった中で、行政もこれを止めるというよりも、どうやって支えていくかという中で、協働のまちづくりであるとか、共助の精神であるとか、我々市民が意識を持ってこれからは過ごしていかないと、成り立たなくなる時代がやってきますと言っているのかなど、活動をさせていただいて感じているところです。自治会活動というのは、改めて重要になってきているなとひしひしと感じているわけなのですが、やはり隣近所であるとか、班であるとか、一番身近にいる人たちがお互いを知って、支えあっているということが、生きていく中で何かあった時、支え合いができ繋がっているということが、一番支え合いになるのかなと感じています。私が生まれた昭和 25 年頃は、そんなに裕福なときではなかったのですが、その頃はみんな同じ生活をしていたので、苦しいときにはみんなで助け合っていたという時代から急激に発達してしまい、社会が多様化してしまい、何でも手に入り何でもできるという時代になったときに、昔に戻れと言ってもなかなか気持ちは戻れないと思います。そんな中で生きていかなければならないとなれば、そういった繋がっていくということが、災害とかの時に役立つということになると思います。私が住んでいる岩崎地区というところは、古くから住んでいる人たちなので、どちらかというとな繋がりが深い地域ではあります。しかし、全体を見ますと新興住宅地ができたりして、なかなか自治会に加入されない方もいたり、抜けていく方もいたりということで、普段のお付き合いが面倒だという人が増えてきているというのが実態だと聞いております。普段何もなければ自治会費を払ったり、役員をやったりということは非常に大変だと思いますが、こういう煩雑を少しでも少なくしながら、隣近所の方と繋がっていける体制づくりをしてあげるといこと、これも 1 つの支え合いで、共助というお金のあまりかからないやり方かなと思っています。お金がない中でやっていく 1 つの方法として、そういった近所同士の繋がりといいものを、もっともっと認識していただく活動を、今もさせていただいてはいるのですが、そういったものに目を向けた施策と言いますか、前向きにやっていただければなという考えでいます。

総合政策部長 地域の繋がりが大事、そういったことへの支援ということで、自治会活動などがまさにそうなのだと思います。13 番の方も、自治会のご意見かと思しますので、先に聞かせていただければいいでしょうか。

参加者 13 長畑の若い人たちは地元から離れて、老人だけの家庭が多くなりつつあるということで、老人2人で生活する家はいいのですが、1人が欠けると1人だけになってしまいます。そうすると、自治会への参加も難しいという方もいます。長畑としては、今まで自治会に協力して自治会を盛り上げてくださった方々ですから、自治会費を半額にするとか、もしくは自治会費をいただかなくても皆でまかなって、自治会を抜けるということは考えないでくださいということです。

地域振興部長 地域の一番身近なコミュニティとして、自治会が重要だというお話でしたが、基本そのとおりだと思います。17番の方から話がありましたように、自治会の活動は日頃から重要であって、日頃の活動の中でも結びつきというのが重要です。災害が起きた時には、実際に普段からの付き合い、地域との繋がりがどうかというところが、生死をわけるところまでいってしまうところも、他の災害の現場などでもある話ですし、そういった意味でも自治会の加入率を上げていくというのが、まずは重要なところなのかなと思っています。

日光市全体でいうと、今は自治会加入率が70%ぐらいです。合併前からかもしれませんけれども、少しずつ右肩下がりで下がってきていて、現在70%ぐらいです。合併前の5市町村でいうと、今市市が67%と低いのですが、旧今市市の5地区の中では落合地区が一番高いのです。そういう意味では、お話にありましたように、昔からのコミュニティみたいなものもあって、ずっと長く住み続けているという方も多いので、高いほうなのかなと思います。ただ、それでも少しずつ下がってきている状況には変わりなく、やはり外からいらっしゃる若い方や、代替わりをしたとかで外から入って来た場合について、なかなか加入していただけない方もおります。日光市としまして、自治会活動のハンドブックというのもつくっており、これは転入者向けに住民窓口のところでお配りをしているものです。既存の自治会のほうでも、元々入っていないとか、何かのきっかけで抜けてしまうという場合に、自治会の役割やメリットであるとか、地域の繋がりが重要だとかを再認識していただくという意味でも、非常に有効な資料かと思しますので、ぜひこちらでも活用いただければと思っています。

それから、先ほどの方からもお話がありました、自治会の状況に応じた減免のような取り扱いなのですが、すでに長畑自治会でやられているということですが、そこまで踏み込んでいる事例というのは、私どものほうでは確認しておりませんでした。これは自治会のルールですから、自治会で決めたやり方でやっていただいていると思います。ある意味先進的な取り組みといえますか、それで実際にこういう形でやれていけるということが分かってくれば、私どものほうとしても先進事例として、特に高齢化が進んでいるような自治会の中で、こんなやり方があり得るということで参考にさせていただきたいと思っています。

総合政策部長 今日のテーマは、落合地区の地域の支え合いの活動なので、自治会は皆さんの意見も深く関わっていると思います。次に、地域の居場所づくりみたいな意見がいくつか出ているので、15番の方、よろしくをお願いします。

参加者 15 上板橋でも、婦人会が少子高齢化になりまして、段々と高齢者が増えてきまして、リーダーとなる方が減ってきています。やはり高齢化が進めば、いろいろな人を集めて段取りを立てて、事業

をやっていくことが重荷になってくると思います。次の世代はあまりこういうことに関心がありません。今は、別に自治会に入らなくてもいいという割り切った考えを持つ方がいまして、それは新しい分譲地の方に特に多いです。昔から地域の繋がりがあるところに住んでいる方は、隣近所だからという認識で一緒に付き合っている状況です。ゴミが捨てられれば、普段の生活には困らないという考えをする方がいまして、特に若い方などは、最初から自治会には入りません。関わりませんからという考え方が多いので、災害などの時には助け合いをしますと一応は伝えていますが、強制できるものではないので仕方ないのかと思います。婦人会は、後継ぎがないものですからなくなりました。それからシニアクラブですが、今はありますけれど、一時なくなった時があります。やはり後継ぎとなる後継者がいないということが一番の原因なので、自治会の役員が負担だと、だから高齢者になってくると人を集めていろいろな会議や、さまざまな問題を処理するというのは億劫になると思います。私は自治会を抜けますという発言があるものですから、自治会のあり方としては、何が何でも自治会の役員が問題を解決するというやり方ではなくて、もう少し負担を軽くするようなかたちの自治会活動ならいいのかなと思います。シニアクラブも1回だめになりましたけれども、また再開しようという人が出てきたのでやっています。行政の方としては、なるべく地域の協力を求めたいものがあると思うのですが、地域そのものもやはり少子高齢化、少子化で育成会がなくなるところがありますし、そういうことを勧告して、なるべく自治会のほうに負担をかけないような方向性で、政策を取っていただければと思います。婦人会がなくなったとしても、集まって皆さんお茶でも飲みましょうとかやってくださいと、最終的に地域との繋がりはすぐにはできないと思うので、災害のときなどには、自治会に入っていないから助けないとかはないと思います。隣近所で心配して駆けつけると思うので、その辺は自治会に入っていないからどうこうではなくて、そういった差別的なことで分けると余計に入りづらくなると思います。日光市の広報なのですが、自治会に入っていない人には配られていません。それが自治会とすれば平等なやり方なのですが、日光市のほうからすれば、自治会とは別で個別的に送ってもらったほうが、よりいいのかなと思います。ゴミ関係の問題などは、新しく制度がスタートして全戸配布でした。重要な案件につきましては、自治会に入っていない方にも、連絡がいくようなかたちでお願いします。

総合政策部長 最初の自治公民館などを活用して、サロンのようなものの設置の話なのかということでも聞かせていただいたのですが、同じようなご意見で少し視点が違うかもしれないのですが、10番の方のご意見をお願いします。

参加者10 居場所というよりも、地域の人が気軽に集まって年齢の差別がなく、お茶飲みをしたり、いろいろな意見交換や交流のできる場所があったらいいのかなという感じです。

地域振興部長 先ほどの方からお話があったように、自治会としていろいろな組織体制が成り立たなくなりつつあるということが、確かにどこの地域でも出てきている話だと思います。特に若い人が中々入っていただけないと、育成会というお子さんを中心にした活動が自治会としてなかなかできない、そもそもお子さんがどこにいるかわからない状況も生まれているのかと思います。学校の中ではそれぞれにお子さんが繋がっていると思うのですが、今は個人情報の問題もありまして、学校外でどういったお子さんが地域にいるのかという情報は、なかなか地域にデータとしては下りてこない仕組みになっていま

す。そのため、そこは自治会にまず繋がっていただかないと、そこから一步一步が進んでいかないということなので、なるべく加入率を上げるということで、先ほどのガイドブックのようなものがあります。

それから、落合地区の場合は非常に利用率が高いほうだと思うのですが、市で自治会に対する助成金制度的なものを持っていて、だいたいのところは地域のイベントとかそういうものに活用されていると思います。そういったイベントみたいなものを契機にして、入っていない方でも地域でこういう活動があったり、楽しい横の繋がりがあるところを目の当たりにしていただくということから、少しでも接点を持っていただくということしかないのかなと思います。

そのほかに、お話しとして居場所的な部分があったと思うのですが、地域振興や自治会への支援という観点から、直接的に日光市で場所を用意するというのは、なかなか難しい部分がありますが、何らかのかたちで、先ほども助成の支援策みたいなもので使えるものもありますし、先進事例として、市内や県内などの他の自治会で、こんな取り組みをやっていますということもありますので、そういう事例について、一緒に研究しながら取り組めること、その可能性について検討していきたいと考えています。

総合政策部長 追加のご質問で、自治会未加入の方への広報の話なのですが、もちろんそういった方にも広報をお知らせしなければいけない、これは重要なことなので、基本的には自治会に入っていない人が読めるようなかたちにするのに、近くのコンビニエンスストアに置いておくので、そこに取りに行ってもらっていただくというのはやっております。中にはそういうことをできない人もいますので、そういう方には可能な限り個別の対応をとって、とにかく広報が手元に届くような工夫はしているということなので、仮に自治会に入っていない人たちの中で、そのような話があったときは、秘書広報課のほうに連絡していただければ、何らかのかたちで届くような対応を取っていきます。カフェみょうじんの例を出されているみたいなのですが、その辺のお話をお聞かせください。

参加者 10 私は、カフェみょうじんを利用したことはないのですが、そんな感じで西部にはありますが、例幣使街道は素通り地区なのです。文挾あたりも素通りされてしまい殺風景な感じがあるので、JR 文挾駅などを利用して、並木の散策や今市の有名なお蕎麦を食べるとか、そのような感じで落合に立ち寄ってもらえたらいいかなと思います。婦人会の代表で来ているのですが、後継者がなくて婦人会がなくなった地域もあります、1人2人では入れないけれど、何人かまとまってなら入ろうという地区もありまして、結構な大家族になっている地区もあります。そういう人たちはパワーがあって、私は後押しされて無理して頑張っているような状況なのですけれど、そういう女性の力なども何かにかかせたら落合地区が元気になるのではないかと思います。

健康福祉部長 今後も高齢者が増加していくと、公的な介護保険のサービスや高齢福祉のサービスだけではなかなか対応がしきれないというような状況が生まれてきます。その中で、地域で支え合える互助という考え方で、今後は高齢化の社会を支えていかなければ難しいと考えております。その中で私どもは、生活支援体制整備事業というのをやっているのですが、地域で支え合う資源を把握したり、状況をとらげたり、あるいはそういった地域での活動、そういったものを創出しつなげるということを取組んでいるところでございます。先ほどのカフェみょうじんは、それプラス認知症の方、あるいは認知症の家族の方が気軽に相談できる場所ということで、認知症カフェ、今はオレンジカフェという言い

方をしているのですけれども、オレンジカフェみょうじんということで、日光市から委託事業で実施しているものであります。オレンジカフェは日光市内に3カ所ほどありまして、その中の1つとして、オレンジカフェみょうじんということで実施されています。オレンジカフェみょうじんの場合は、認知症だけに限らず、地域の集いの場というところまで広げているみたいでありまして、認知症だけの方、あるいは認知症の家族の方だけではなくて、地域の方が気軽に集まってきていただいて、その中で交流を深めるといふ活動をされているということでもあります。それ以外にも我々のほうでお聞きしているのが、文挟にも文挟サロンという集いの場もあるということで、日光市といたしましては、そういう高齢者の方が家に引きこもるのではなくて、介護予防という視点であったり、健康づくりという視点で集まって交流を深めていただいて、結果的に健康づくりや介護予防につながっていければということで、そういったものに取り組んでいるところでございます。市内でもいろいろなところで取り組みが始まっているところでして、そういった広がり在今后とも日光市としては、持っていきたいということがありまして、他のところの取り組み事例とかを今まとめているところでございまして、そういった事例をご紹介しながら、もっとそういう活動の広がりにつながっていければと考えております。またそういう設置に対しても、何らかの支援ができるかということも、今検討をしているところでございます。

総合政策部長 生活支援体制整備事業というのは、日光市のまちづくり事業はまさにその点だと思しますので、1番の方、視点が変わるのかもしれないのですがよろしいでしょうか。

参加者1 今までの話の中で、自治会がどのように皆の活動の支援をしているのかということ、例えば長寿会、ソフトボール部、バレーボール部、子供育成会、婦人会、それぞれに補助金などを出しています。私の課題・解決策と、自分たちでできることの内容なのですが、実際にいろいろな自治会の活動を見ると、結構人が集まる機会という感覚は私の中でありまして。ただ、長寿会などは、組織率がどのくらいかということ、20%前後ではないかという感じはしています。そのほかの人たちというのはどうなのだろうかということになると、まだ元気で働いているとか、それからときどき見かけるのは、施設の送迎で施設に通っているという方たちで、特に皆と付き合わなければ困っているという話は、私のところには聞こえてはきていません。そういったいろいろ困っている方がいるとすれば、そういうサロンづくり居場所、そういう物理的な場所ではなくて、例えばインターネット上のサロンづくりみたいなものというの、1つの手なのかと思いました。私も最近 SNS をはじめてこれは便利だなと思いました。例えば LINE などグループを組んでいると、誰が読んだということはわかりますので、そうするとこの人は元気であるというのが掴めるので、そういう活用の仕方があるのではないかと考えています。その時に問題になるのが、機器の iPad、 아이폰、インターネットの環境を整えなければいけないので、その時に高齢者が1人で全部を負担できるかということ、おそらくできないのではなかというふうに思います。今、お話をしている思ったのは、落合地区のまちづくり事業検討会がありますが、そういうところで使わせてもらえるとありがたいのかなというふうに思ったりはしているのですが、全て与えるのではなくてレンタルでやるとか、ランニングコストの4分の3が標準みたいなのですが、日光市から補助金が出るとか、そしてインターネット環境の中で情報交換をすると、それが続けば近所にいけば、昔、オフ会というのが流行ったのですが、外に出て実際に会うということも少し考えてみました。それから人口流出についてですが、なるべくこの土地に留まってもらいたいということで、落合地区のまちづくり

で落合地区に来て見てマップというものをつくってあるのですが、看板みたいなものが今年設置予定です。落合地区の歴史物について、どういうところに何があるかというマップをつくって、若い世代の人たちにも、落合地区はこういう歴史があるというのを知ってもらい、1人でも2人でも定着してくれるとありがたいと思います。

健康福祉部長 色々な自治会や地区で、横の繋がりや相互の繋がりをどういうふうにしていくのかは、色々なところで試行錯誤されています。例えば先ほどの集まる部分についても、何をもって人が集まるかということで、ただ集まるだけだと集まらないので、体操をやるから来てねとか、そこで行事をするというよりは、体操をするから時間に来て、体操をしたついでに話ができればというふうな取り組みをやっているところもあります。お話がありました SNS ですか、そういったものを活用して横の繋がりを設けるといっても、確かにアイデアとしてはあるなと思っているのですが、我々はいろいろな情報をお伝えするときに、メールとかそういうものを見ないという方がたくさんいまして、かなり有効ではあると思うのですが、使い方とかがある程度広まっていかないと、難しいのかなという気がします。ほかの自治体では、何年か前からある自治体で、そういった iPad を配って高齢者同士が交流をしているということは聞いたことがあります。それは下地をつくっていけないと、なかなか広がらないところであるので、今後の課題なのかなと思います。

地域振興部長 ご紹介がありました「来て見てマップ」ですが、地域まちづくり提案制度ということで、落合地区全体でこういうものをつくったらいいのではないかと途中でまとめた結果、事業化されたと思います。ただ今、健康福祉部長から話のありました、SNSの活用による繋がりについて、高齢の方がそれを使いこなしているところまでいくのに、講習とか色々なものがどの程度必要なのかわかりませんが、そういったものに地区全体として取り組んでもいいのではないかとということで、皆さんの地域の合意が図られれば、地域まちづくり提案制度の事業費の枠の中でも対応できる提案だと思しますので、その辺はご検討いただければと思います。

参加者 2 私の方では人口問題について、特別いいアイデアがあるわけではないのですが、鹿沼市や宇都宮市と比較すると、交通の便などいろいろな意味で日光市はハンディがあります。工業団地を誘致にするにしろ、商業施設にしてもかなりのハンディがありますので、そのようなことを考えると、無理をして工業団地みたいなものを誘致せず、宇都宮市あるいは鹿沼市の工業団地に勤める方の住まい、後方支援という方がいいのかなという気がしています。そのためには医療問題や、社会インフラの整備そういったものが当然必要になってくるわけですし、住みやすい日光というものが、どうしても必要になってくると思います。安全・安心なまちづくりを全面に出して、どうぞ日光に住んでくださいという PR も必要なのかという気がしております。そういう中で我々ができることということで、自治公民館や活動の問題が出ていますけれども、とにかく地域の中では行政の支援も必要であります。自治公民館の活動そのものが非常に大事だということは当然でありまして、特に高齢化社会でありますけれども、高齢化、高齢化と言っても、多くの方は元気な高齢者であるわけなので、そういった元気な高齢者が活動できる、活躍できる場の提供というのも、かなり重要になってくるのではないかと考えています。また落合地区は、住宅団地もたくさんありますが、昔から農林業が非常に盛んな地域ですので、そ

ういった農林業を生かした地産地消ではありませんが、農産物の直売や食材の提供などでもできる地域でありまして、農林業と一般の地域住民の方々の交流を積極的に進めれば、新しい落合地区が見えるのではないかという気もいたしております。行政のほうで我々に対して、いろいろな情報提供や研修の場を提供していただいておりますが、特に市の職員の方々も、非常にいろいろな場面で地域に入って一緒に活動していただいておりますが、そういった意味で市の職員の教育というものも、きちんと整備していただいて、市の職員の方々も日光市のために、色々な意味で頑張っていく、働いていくという意識を高揚できるような教育環境の整備も非常に大事なことという気がしております。

総合政策部長 非常に多方面にわたるご提案をいただきました。まち・ひと・しごと創生総合戦略というのは、今のままだと日光市の人口が35,000人ぐらいになってしまい、それではまちの維持が非常に難しいので、いろいろなことをやって50,000人ぐらいで留めようという内容です。そのためには農業ももちろんですし、仕事の間をつくること、人との交流の間をつくること、愛着心を持ってもらうこと、そういったネットワークをつくること、これに基づき取り組んでいきますというような計画です。ご提案いただいたことも非常に参考になる話ですし、そういった同じようなことや、さらに新しい提案も入っていると思うのですが、その中でそれぞれの所管担当部長から、今のご提案についてコメントがあると思います。

教育次長 教育委員会の方ですが、地区公民館の活動は、私どもで担当しています。自治公民館となると、わずかですが支援をさせていただいております。住民の方にとっては、一番身近な場所であるだろうなということで、なかなか地区公民館の活動を、自治公民館まで広げようというのは難しいところではあるのですけれども、公民館でやっている講座や出前講座等もありますので、人が集まる機会をつくらうということには、何らかの協力ができると思いますので、また盛り上げていただければと思います。

産業環境部長 続いて地産地消ということで、農林業に従事する方につきましても、人口減少と同じようにだんだん少なくなってきました。自分で実際にできない方については、できる方に耕作してもらうということもやっているようでございます。そういった方が自分の活力を見出すために、近所の方と一緒にやっていくのは1つの方法だとは思っていますので、これについては農林のほうで研究をさせていただきたいと思っています。

行政経営部長 行政経営部のほうで、市の職員の意識高揚ということで、実践的な研修が必要だと思っています。各法律とかそれぞれの職に応じた研修というのも必要なもので、職員を2年に1回ほど行かせているのですけれども、そのほかにやはり自分が携わる仕事についての実習研修や、先進地の視察研修に今は力を入れていまして、そういった方法を自分たちで選んで、私が行きたいとかグループでやりたいたいとか、そういうところを今やっております。今後もそちらのほうには、力を入れていきたいと考えております。

(※参加者3の事前意見について)

産業環境部長 働く場の情報を発信していくというところなのですが、今現在ホームページのほうで就

職情報ガイドホームページを別につくってありまして、そちらのほうで見ることでもあります。ハローワークの求人情報等につきましては、各行政や地区センターにも配布をさせていただいて、見られるような体制は整えております。仕事づくりににつきましては始まったばかりということもありまして、おっしゃるとおりもっと広くということにつきましては、活動の中で広めていければと思っています。また働く人につきましては、合同企業面接会というのを1年に1回やっていたのですが、今年からは2回開催するようにしまして、年齢を45歳以下の方と、45歳以上の方に分けて説明会を開催させていただいて、就職の場の提供に努めていきたいと思っています。新しい仕事づくりに関しましては、情報を広めるということは大変重要なことだと思っていますので、これはまた仕事づくり推進室とは別につくってありますから、そちらのほうでしっかりとやらせていただきたいと思っています。新たな企業の誘致というところで、これは落合地区につくったほうがいいのか、あるいは日光市全体でという考え方なのか2つあるのですが、日光市全体でということになりますと、まず大きなお金がかかってしまいます。土地が必要であるとか、いろいろな諸条件があります。そういうところを整えて団地をつくっても、買ってもらえないということもありますから、これはあくまでも土地を十分調査をして、誘致を図っていくということは今後の活動としてやっていきたいと思っています。中小企業を1社でもいいから誘致していくというのも、大変重要だと思っています。用地がどこにあるのかというところがあるので、これは今年度の予算で市長と議会にお願いして、予算をつけていただいて調査を始めてから、少しずつでも進めていければと思っています。また落合地区に限って言えばヨックモックの跡地に、日本チョコレート工業組合というところが工場をつくる予定です。今年度中に始まるということをお聞きしていますが、始まる前には必ず準備説明会を開催するとお聞きしておりますので、この中で皆さんのほうには説明があるのかなと思っています。最後に獣害対策というところがあるのですが、イノシシ等の対策につきましては、防護柵設置補助ということもやっております。なかなか減ってはいかないのですけれども、継続して対応させていただければと思っています。

市民生活部長 続きまして、市民生活のほうの安全対策という部分で、防犯カメラの設置ということがあります。長畑地区では既に付けていただいている事例がございますが、自治会単位でやっていただくということであれば、日光市の補助制度というものがありまして、一台当たり費用の4分の3、上限35万円という基準がございますので、単独の自治会でもいいですし、協力し合って複数の自治会でもいいので、ご活用していただければと思います。

参加者3 自分の子供たちが就職活動をする時に、働き場が少ないということで、実家に戻ってくる機会が失われてしまうという話もよく聞きます。大きい企業ではなくても、小さな個人のところでも、説明会などには出てこない企業でも、皆さんの口コミや情報網でこのようなところがあるとか、こういう仕事を探しているなら、小さい個人企業だけれどもどうかとか、そういうような親子間の話し合いとか、そういうのも導いていけたらいいのかと思っています。先ほどサロンの開設とか、公民館の活用とか出ていましたけれども、そういうところをお手伝いしている方も高齢化しているわけで、今、70歳前後の方がお手伝いされていても、10年後というのは80歳になりますから、逆にそこで誰かの手助けを受けながらそこに通うことになると思いますので、やはり若い方を呼び戻すと言いますか、人口減少の歯止めになるような方向で考えていけたらと思っています。

(※参加者4の事前意見について)

健康福祉部長 子育て支援センターについてですが、市のほうで子育て支援センターをショッピングプラザ日光内に開設をしているのですが、ここは基本的には子育て家庭のための支援や子育ての情報提供であるとか、子育て相談支援、またサークル活動の支援もやっております。その中で子ども広場ということで、子供たちが遊べるスペースを確保しています。この子育て支援センターの事業につきましては、ショッピングプラザ日光だけではなくて、各保育型児童館にもあります。落合地区で言いますと落合児童館、塩野室児童館、豊岡児童館の3館においても同様のことをやっております。第2、第4火曜日に開放しております。現地との交流であるとか、子育ての相談をその場でお受けしているとか、園庭を使って遊ぶというようなことを行っているところがございます。それ以外に新たにつくってほしいというようなお話なのか分からないのですけれども、子育て支援センターについては落合地区においても、落合児童館の中で同様なことはやっているということが現状であります。

参加者4 私は落合児童館でやっているということを知りませんで、この公民館の中にもそういうものがあつたらいいなという思いで書きました。落合児童館でこのような催しをやっていることが、どのくらい皆さんに周知されているのか聞いていて疑問に思いました。私は孫と一緒に住んでいませんので、利用する機会というのはなかったのですけれども、周知がどうなっているのかというのは気になりました。

健康福祉部長 我々のほうとして周知が足りない部分があつたと思いますので、今後も周知をして利用促進に努めてまいりたいと考えております。

(※参加者5の事前意見について)

教育次長 世代を超えたイベントができそうということとか、落合地区の特徴ということで、私の方で頭に浮かぶのが、石釜のピザがあります。それにつきましては、落合地区石釜運営委員会によりまして、維持管理をやっていて、その辺も活用しながらいろいろなイベントでピザづくりなどをやっているかと思えます。落合地区では、地区公民館や中学校の共催で、緑ヶ丘ふれあい交流会というのもあると思えます。ほかにはない特徴的なイベントなのかと思えます。落合支部子ども会連絡協議会が主催している落合レストランとか、周りから見ていると、落合地区の方々の活動は活発なのではないかと私も思えます。ここに書いていただきましたように、世代を超えてそういうイベントを通して、人が集まるといふのは理想ですので、今後この石釜とかを活用していただければというふうに考えております。

参加者5 私が思っていたのは、何か落合地区に1つでも魅力ある事業があれば、子供たちに印象付けられて、時間はかかると思うのですが、子供心に思った想いを、大人になっても持っていてもらえるような事業がくれたらという思いで、ここに書かせていただきました。それには、今、皆さんから意見があつたと思うのですが、人との繋がり方が希薄になっているということを感じていて、人との繋がり方をいかに濃くしていくかというのが、私には浮かばないので、その辺のところを考えていただければと思います。

(※参加者6の事前意見について)

教育次長 アンケートをいただきまして、グラウンドゴルフはどこでやっているのかというところも調べてみました。落合地区では、長寿会の方を中心に落合運動公園、落合地区東部運動広場、旧落合児童館跡地などの市有地のほか、自治公民館の敷地、ゲートボール場などで行なわれているということです。地域によっては、グラウンドゴルフ場がないところもあるのですが、こちらの地区ではやるところはあるのかと感じました。平成27年度に、小代残土処分場埋立地の要望というのを市の方にいただいたと思います。そこをグラウンドゴルフ場や親水公園、ドクターヘリのヘリポートなどに計画してはどうかという要望だったと思います。それにつきましては、埋め立て完了後ということで保留になっていると思うのですが、その辺の絡みもありますので、まずはここに今グラウンドゴルフ場ということではなく、その辺も見据えていただければというふうに考えます。ウォーキングコースというところでは、公民館のほうでも中学校などを使ってやらせていただいているので、照明があれば周りのコースでもできるというところだと思います。夜間照明となりますと、歩道の整備とかいろいろなところが必要になってくると思いますので、まずは今やっている公民館事業を活用していただいて、残土処分場の絡みなども含めて検討させていただければと思います。

参加者6 私としては2つほど要望があるのですが、1つは、落合地区の各地域の歩道整備と維持管理ということです。私は仕事上、落合地区のあちこち歩いていると、年配の方でウォーキングされている方がたくさんいるのですが、その方々は5~10kmを簡単に歩いています。各地域にそういう小さなウォーキンググループみたいなものがたくさんできれば、ウォーキングの途中で独居老人の方に声をかけてもらったり、そのようなことにも繋がるのではないかとってはいるのですが、歩道が途中で途切れていたり、今の時期になると歩道の間から植物が生えたり、横から木の枝が出ていたりして、歩道が歩きにくくなっているものですから、地域で二宮デーとか民地の方の善意できれいになっている部分もあるのですが、そうでないところもあるので、市のほうで年1回でもいいので、歩道をきれいにしてもらうことはできないかというのが1点です。もう1点は、中学校にはきれいな桜も咲きますし、地域の行事など色々やるのですが、そういう時に花見などをすればいいかと思うのですが、学校の敷地内で、今はアルコールを飲ませないような風潮になっているのですが、ある程度決まりをつくれれば、大人は飲んでもいいというのをしっかりと教えるのも教育かと思います。学校で地域の人が花見をしながら宴会もできる機会を考えてもらえないかという要望です。

教育長 そういう場もあればいいと思うのですが、タバコも含めて敷地内での教育的な配慮も含めて、校内でタバコは吸えないという環境になっています。喫煙者にとってはかなり厳しいと思いますが、さらにお酒となると、やはり敷地内での飲酒というのはタバコ以上に厳しいからできないと思います。例えば子供がいない時ということもあると思うのですが、それも含めて敷地内の飲食ということは、やはり難しいと思います。

総合政策部長 道路管理を担当している者が来ていないのですが、基本的にはやはり地元の方に通常の管理をお願いするのかなと思います。ただ、そうは言っても難しいところや危ないところなどもありま

すので、そういうところはやってくださいというわけにもいかないと思いますので、具体的な場所として、どういう対応ができるかということも含め、建設部の方にご連絡いただければと思います。

副市長 今までは、自治会長から道路の維持管理に関して、ご意見をいただいていたのですが、最近は直接、自治会長が維持管理課のほうに、ここの場所がという指摘をいただいています。そういった受けける体制も整っていますので、そこは本当に危険だとか、自分たちではとてもできないというところについては、自治会長をとおしてご連絡いただければ、対応できると思いますので、よろしく願いいたします。

(※参加者7の事前意見について)

地域振興部長 住民参画の機会が少ないということについては、ソフトとハードの両面があるのかと思うのですが、ソフト面で言うと、先ほどご提案のあったような大きなものや新たなものへの取組みというのはなかなか難しい面があると思います。やはり、自治会でやられているような身近なイベントみたいなものについて、自治会の助成金等を使っていただいて、そういうもので地域を盛り上げていただくということが1つかと思います。

それからハードの部分なのですが、交流の場、公園というものが出てきまして、公園自体は建設部の方なので、あまり具体的なお話はできませんが、大きなものとしては小代の残土捨て場の活用ですとか、可能性はあるのではないかなと思われまます。小さなものと言いますと、市が新たに整備するという事ではないかもしれませんが、各分譲地などで整備されている小さな公園みたいなものが、権利関係の問題でなかなか市のほうに移管されなくて、地元で困っているということがあります。そういった場所がどんどん活用できれば、という部分もありまして、底地関係等をまとめていただければ、市で受け入れて、少しでも手を入れていくという仕組みができていますので、そういったものも多少ですけれども、地域交流の場所や小さな公園の活用といったところにつながるのかなと思います。

市民生活部長 通学路沿いに防犯灯が少ないというようなご意見であります。ご存じのとおり自治会長を通じまして、毎年防犯灯の要望をいただいております。毎年かなり要望が多い状態です。すぐにはいかない場合もありますが、順次予算の範囲内で設置させていただいております。必要に応じて自治会でご相談をいただいて、要望していただければと思います。

(※参加者8の事前意見について)

行政経営部長 それでは、先ほどご提案をいただきました、100年の森づくりコミュニティの場づくりといった市有地の関係なので、私の方でお答えさせていただきます。ご提案いただいた市有地につきましては、先ほど教育次長からお話がありましたように、落合中の向こうに市有地が14,000㎡ぐらいあると思うのですが、あそこは段差が非常に多い土地ということで、現在は小代残土処分場ということで、今、残土を入れて埋め立てを行なっているところです。この用地につきましては、やはり先ほど話があったように平成28年1月に落合地区の自治会長から要望書をいただきまして、埋め立て完了後にドクターヘリのランデブーポイント、それからグラウンドゴルフができる公園というような要望をいただいております。これに対する市の回答としては、埋め立て完了時期が未定ではあるのですが、ドクターヘリのラ

ンデブーポイントについては、完了後の状況を確認した上で利活用を検討します。公園については、市の財政状況等を考慮しながら、全市的な視点で検討するとお答えしております。この埋め立て後の状況が重要になるのですが、今の区画 14,000 m²のうち 5,400 m²くらい埋め立てているのですが、あと 2 年ぐらいで埋め立てが終わる予定です。この時期に合わせまして、埋め立ての状況確認を行うとともに、要望書を協議しまして市としての検討を行なうのはもちろん、どのような形にしても皆さま方との協議が必要だと思っております。本日のご意見につきましても、公園としての 1 つの案としまして、市の検討と皆さまとの協議という形で進めていければと思っております。

参加者 8 落合は駅にも近く利便性がいいので、先ほど何人かの方が 1 カ所でもそういうのがあればいいというお話がありました。私としては、グランドゴルフをするのはもちろん、全部がグランドゴルフではないわけですから、少しずつの積み重ねのために 100 年と書いたので、何年かかるかわかりませんが、少しずつ積み重ねて公園とか、良くテレビでやっているとおっしゃいましたが、クヌギとかドングリを拾ってきて植えて、イベントタウンができてという夢のある話なのですが、落合にできたらいいなと思いました。今、残土置き場となっているようなので、全部がグランドゴルフとかということではなくて、少しずつやったら夢があっていいのではないのでしょうか。

(※参加者 9 の事前意見について)

健康福祉部長 1 点目の高齢者の居場所づくりですが、課題としてあげている中に、運営費はどうか、サロンを応援してくれる女性がいるかとか、場所の話などがあります。高齢者福祉計画を策定する時にアンケート調査をしております、参加する意欲はあるけれども、企画運営に参加することは厳しいという状況です。このサロンづくりをどうしていくかという話については、キーパソンとなる人がどれだけいるかというのが、他の地域のそういった立ち上げの状況を見ても大変重要なことになります。市としても、担い手の養成研修をやっていますが、これまで 200 人くらいの参加者がいまして、そういった方がそれぞれの地域の中心的な存在になっていただいて、サロンの立ち上げなどに動いていただけるように努めております。運営費をどうするかとか、どう運営するかというのは、地域の実情に応じて色々です。それぞれの地域が取り組んでいる事例をご紹介していければというお話をさせていただいたのは、どういうきっかけでそういう集いの場を設置して運営していければというのを紹介させていただくことによって、サロンづくりのきっかけになればということです。場所については、それぞれなので何とも言えませんが、公民館などを使っている事例が多いです。新たな場所を探すのは難しいので、そういったところを有効に使って動いているところが多いです。開催についても、月 1 回とかです。体操をきっかけに集まるということから、だんだんサロンの運営にとっております。市としても、貯筋アップ体操をやっておりますが、指導員を派遣したりというのを活用していただければと思います。2 点目の地域に病院ということですが、市のほうで病院事業をやっているところもありますが、基本的にはへき地医療ということで、医療が受けられないというへき地については、役所のほうで三依とか小来川、中宮祠に診療所を設置しておりますが、財源的な問題がありまして、へき地医療は県や国から財源の手当てがあるのですが、へき地でない場合は市が実施するということになると、100%を市が持ち出すという形になってしまいますので、なかなか市のほうで落合地区に診療所を設けるといのは難しいと思います。一方で、民間の医療機関を誘致する場合、医師会の関係や医療機関の意向がありま

して、日常的には難しいのかなと思います。

産業環境部長 3点目の企業誘致につきましては、大企業もそうですが中小企業につきましても、しっかりとやらせていただきたいと思います。また、市内のほとんどが中小企業なのですが、これらの支援についてもしっかりとやっていきたいと思います。内容としては、企業が大きく会社を伸ばしたい、あらたに従業員が必要となるような、例えば工場を大きくしたいとかそういったところの支援、新たな分野にも挑戦したいということの支援を用意していますので、そういったものを使っていただいて、市内の中小企業には頑張っただけだと考えております。創業支援ということで、新たに市内に企業を起こすというような支援活動を昨年からやっております。新聞にも載りましたが、足尾で1軒起業されたというようなこともございます。こういった方をどんどん支援していきながら、中小企業の数も増やして行って、雇用の場を増やせればと考えておりますのでご理解いただければと思います。

参加者9 高齢者はだんだん体が不自由になったりすると、施設にお世話になるというようなことで、充実したところがたくさんありますが、その前の段階で、元気に地域で安心して暮らせるということが一番幸せなことであって、そういう施設に入る前の段階でお互いに集まって、いろいろと話し合いができる、それが支え合いの場になるのではないかと考えています。よく集まると、元気な高齢者だけでランドゴルフやゲートボールとか、ニュースポーツなどやっておりますけれども、そればかりではなくて集まっておしゃべりする、あるいは歌でも歌う、食事をするとか、そういった皆でおしゃべりすることが非常に大事なのです。そういった居場所、サロンがあってもいいと思いますが、誰がそれをやってくれるのかということですが、60代から70代のなんとかしてあげようという人が出てきて、身近には自治公民館がありますから、そこを利用すれば一番経費がかからないでいいのですが、聞くところによるとあちこちに空き家があります。その空き家を使ってもいいという声もあります。ただ、空き家を利用するには経費がかかるので、そういったところを市のほうで支援してもらえれば、維持費というか運営費の一部でも利用する者の立場には、非常にいいのではないかと考えています。高齢者にやさしい、そういう配慮もしていただければと思います。病院のことに関しては昨年も話しましたが、安心して看てもらえる地元の医者、そこに行って先生と話をすることによって元気が出る、また大きな病院への紹介状も書いてもらう、これが非常に大事なことです。最初から大きな病院といっても時間もかかるし、遠いところに行かなくてはならないということがあるので、いろいろと難しいところがあると思いますが、高齢者にそういう気持ちがあるということです。

健康福祉部長 設置にあたっての金銭的な支援も含めてですが、今後検討させていただきたいと思います。高額な支援は難しいと思いますが、何らかの支援ができればと思います。

参加者9 具体的に言いますと、古民家があってどうぞお使いくださいといったときに、借料などからないから利用してくれればといっても、光熱水費はかかります。利用者だけで負担というわけにはいかないと思います。元気な高齢者がたくさんいれば、保険をあまり使わないで済むわけです。これから、ますます団塊の世代の人たちが75歳以上になるのは目に見えて、7、8年後にはかなり増えてくるということなのです。そういったときに、あちらこちらにサロンができればと思います。施設の送り迎えで、

ああいうところにはあまり行きたくないというふうを感じる人も相当いるのではないかと、我々だけで何かできないかなと思います。そういう時に支援してくれる60代くらいのボランティアでやってくれる人、公民館でもいいですが古民家でも利用できるとなれば、なお一層いいと思います。古民家を借りる時には公民館とは違うので、かなり負担もかかってくるのだなと思います。前向きに考えていただければありがたいです。

(※参加者12の事前意見について)

観光部長 四季島のお出迎えということで、市や観光協会、栃木県で、今、JR日光駅の構内でお出迎えやお見送りというのを、運行に合わせてやらせていただいております。その際、横断幕や小旗等でお出迎えしているところです。こちらで使っている横断幕や小旗は、四季島用ではなくて汎用的に使えるもので、いろいろなイベントに使えるものを四季島のときにも使っているということで、こちらにある作成というのが、自分たちなのか市の支援なのかはわからなかったのですが、もし市の支援という形になりますと、市がつくってそれらを皆様にお配りするのは難しいと思っております。ただ、先ほどから出ておりますように、まちづくりの自治会への助成制度とかをご活用いただくという可能性はあるのかなと思っております。ユニホームにつきましては、申し訳ありませんが市からお貸しできるものはございません。四季島同様に昨年運行が開始されたSL大樹は、ロコモーション協議会というのが立ち上がって、大樹に手を振る運動というのを展開していただいております。沿線の皆さんでSLが来たときには手を振りましょうという運動をしていただいております。日光にお越しいただくお客様を温かく迎えるということは、とても大切なことと思っておりますし、皆様がそのような思いでそういった行動をしていただくというのは、市としましても非常にありがたいと思っております。

参加者12 現実的に検討して実施することになれば、また市の方にお知恵を借りながら実施していきたいと思っております。もう1つ要望ですが、文挾駅から鹿沼方面に向かしまして300mくらい伐採が進みました。四季島の中から並木がその間だけ良く見えるような状況になったのではないかと思います。さらにそれからずっと境石方面まで、伐採を少しでも早く進めてもらえれば、四季島の乗客の皆さんに喜んでもらえるのではないかと思います。それに合わせまして、用地の買収とかそういうものについても、市の方から県の方に要望をお願いしたいと思っております。

教育次長 杉並木の話になりますと文化財課が関わりますが、今の時点で国道と駅間の公有地化というのが大部分です。国道の反対側の方はほとんど進んでないのですが、面積でいうと約21,000㎡は公有地化が進んでいるということで、かなりの部分が進んでいると思います。今後、並木街道の保存活用計画というのがありますので、県のほうでも公有地化はまだまだ進んでまいります。日光市としましても、並木の保護は県と一緒にやっていますので、公有地化についても要請等をしていきたいと思っております。

(※参加者14の事前意見について)

総合政策部長 人口減少社会ということで、先ほど申し上げましたような計画を立てまして、人口減少対策に取り組んでいるところですが、ご提案のように、はっきり3世代同居を目指しますとは出ていませんが、まさにそのようなまちになることが理想だと思います。そういうところに向かって、こういっ

たことを1つずつ積み上げていくこと、また、皆さんも色々なことをお考えになっていて、そういったことを意見交換しながら、積み上げていく形で色々なことに取り組んでいかなければならないと思っておりますので、今後ともよろしくをお願いします。

参加者14 落合地区のことについて話していましたが、人口減少問題は市だけではなく、国や県、市が一体になって、真剣に関心を持って取り組んでいかなくては解決しないと思います。まずは働く場所がないということで、企業の勧誘と都市からのリターンについて、優遇措置をすれば地元に残って、都内には行かないような感じがします。地域の活性化について、人材育成、農業、観光、産業基盤をしっかりすればいいのではないかと思います。一番私が感じていることは、子育てです。人口減少のもとには子供がいないということですから、結婚から子育てまでを切れ目なく支援して、多子世帯や3世帯まで同居する人は、所得税を安くするなどの方法を取ってもいいのではないかと思います。近隣自治体との連携を強化して協定みたいなものを結んでやれば、もっと促進できるのではないかと思います。地元に移転をする場合、企業を優先すれば企業もそのまま轟工業団地でやったかと思いますが、よりもっと進めていけばいいのではないかと思います。日光市はふるさと納税の宣伝をあまりしていないようなので、これからもっと拡充していただきたいと思います。最後に市長も掲げた、改革なしにして継承なしを、ぜひ実行してもらいたいと思っています。

(※参加者16の事前意見について)

健康福祉部長 老人の一人暮らしの世帯が今後増えていく、一人暮らしだけではなく高齢者のみの世帯が増えていくという想定をされているとのことであります。日光市といたしましては、一人暮らしの高齢者事業の中では、例えば緊急通報装置、もし何かあった時のための通報装置の貸与事業であるとか、緊急の際の見守りキットの配布ですとか、各種もしもの時の場合の事業をやっているところでございます。見守りについても、見守りそばネット事業ということで、自治会の民生委員、社会福祉協議会、新聞配達店などの事業者のネットワークを通じて、情報を吸い上げてその情報に基づきまして動くというような体制を取っております。また支援が必要な方については、地域包括支援センターの方で伺いまして、適切な支援に繋げるといった事業もやっているところですが、普段の見守りについては、行政の力だけではなかなか十分な対応は難しいという状況でございます。そういった中では、地域での見守りということをお願いしていくしかないと思います。地域の中の繋がり、顔が見える関係づくり、集いの場も1つであると思いますが、そういったことをお願いしていくことに尽きるのかなと考えているところでございます。これといった手立てがないというところがございますので、そこは地域の中で、お互いに支え合うという中で見守りをさせていただければと思います。

参加者16 手岡地区は世帯が少ないのです。一番困っているのは、自治会などの役員をやってくれる方がいないのです。10年後ぐらいには、20~30人くらいは減ってしまいます。一人暮らしの老人世帯が多くて、農家の長男でありながら、跡を継がずに鹿沼市や宇都宮市に出て行ってしまおう方が意外と多いのです。年寄りの一人暮らしや二人暮らしが30人ほどいます。あと10年したらどうなるのか不安で、今までは老人会はなかったのですが、落合のほうから勧められて老人会もできたので、一緒にやっといこうと対策として考えてはいます。自治会がやっていけるかというくらい不安なので、人口が

減ってしまうのが一番の悩みです。一人暮らしの方をみることも大変なのですが、私も一期で辞めたかったのですが、次の方がいないため二期になってしまいました。役を減らしてもらいたいというのが要望です。

(※参加者18の事前意見について)

市民生活部長 つくし野自治会で、今市南部地区のデマンドタクシーの方に加入したいというご要望を昨年もいただいております。デマンド交通につきましては、冒頭に市長からもありましたとおり、市内全体で将来の不安のようなものは非常に大きなものがあるということでして、地域内の足を確保するための手段というところでもあります。今市南部につきましては、主要路線であります下野大沢線は、市の方で運営していきまして、その路線と競合しないようにということが国の基本になります。南部につきましては、幹線や路線に乗れない、バス停までも行けない人たちのためにやりますということでもあります。本来、乗れる方は近くの主線まで歩いてバスに乗ってくださいと、そこまで行けない方、地域内でも短い距離を移動できない方を救うために、やりますということが根本にあります。南部の協議会からも運行エリアを広めたいというお話を伺っております。地元から立ち上げた制度ですので、地元の負担もかなり厳しくなっているというお話もお聞きしております。日光市としては、なるべく国から補助金が貰えるようなところまでもっていかせたらと、協議会とは話をさせていただいているところです。つくし野は大沢駅に比較的近い位置にあるということで、移動手段としてもあまり使う機会が少ないという部分があるのかなと想像はするのですが、仮にメンバーになるということになりましても、移動する負担というのは主要な駅や、バス停などが目的地になりますので、利用する内容というのは大きく変わらないのかなという気がいたします。いずれにしても、地域の皆さんが使いやすい交通手段ということで、自治会長にも意見をいただいておりますが、計画の中でデマンド制度の拡大と、地域内交通という表現を使わせていただいておりますが、具体的に何なのかというのが難しい部分はありますが、地域の中で互助的な考え方でやるとか、いろいろ方法はあるのですが、一番地域にあった移動の手段を考えていかなければならないと捉えてございます。

参加者18 今市南部地域運営協議会の方は、受け入れはいつでもいいですということになっているので、ぜひここに加入させていただきたいと思っております。正直なところネックになっているのが、市の地域公共交通運営協議会だと私のほうでは認識しておりますので、市長の最初の挨拶にもあったように、地域公共交通の確保ということをおられますし、私は80歳になったら免許証を返納しようかと思っています。高齢者の交通安全が非常に問題になっているので、ぜひデマンドバスを利用してくださいと言われていたのですが、デマンドバスの行き先は限られるので、それだったら私たちは比較的落合の中でも公共交通は便利なほうだと思いますが、それでもやはり南部地区のタクシー制度に加入したいということなので、具体的にまた相談にいきますのでよろしくお願ひします。それから、日光市は平和都市宣言をされて20年近くになります。毎年8月に行われる広島の平和記念式典に中学生40名ぐらいを派遣していることは、非常に素晴らしいことだと思いますし、帰って来た子供たちが皆の前で体験を発表しているということは、続けていただきたいというふうに思っています。今、テレビで毎日報道されている米朝首脳会談があったように、世界全体は平和に向かっていると思うのですが、国の問題でしょうが日本が果たす役割としては、憲法9条を生かすような形での政策が必要だと思いますし、一地方自治

体であっても、日光市は世界各国からのお客さんが多く、その中であって日光市の行政としても、ぜひ憲法に則ったかたちでの行政、特に平和を次の世代に引き継ぐという点では、安心安全のまちづくりということで、一番何が肝心かという点では平和だと思いますので、最初に述べた都市宣言をしている都市として、市長にぜひこれを貫いて欲しいし、ますます進めていただきたいと思いますので、市長に要望したいと思います。

総合政策部長 今までアンケートに基づいた意見交換会ということでやらせていただいたのですが、今までの中で何か関連することで、ご意見等があれば伺いたいと思います。

参加者 14 デマンドバスという話が出たのですが、デマンドバスの回覧板が各自治会に回りました。デマンドバス利用促進期間 8 月 1 日から 9 月 30 日までという回覧板が回ってきました。1 回につき 300 円のところ、8 月から 9 月までは 100 円ということですがけれども、100 円にするのであれば、無料にはならないのでしょうか。今の高齢者はお金をあまり使いたくないので、無料化にすれば利用者が多くなると思いますので、試験的にやってもいいのではないかと思います。

市民生活部長 昨年もやらせていただきました。いくらかは利用の数が増えたのですが、やはり昨年アンケートなど地元の方にお聞きしますと、使い方がわかりづらいとか、乗ったことがないというご意見も伺っております。私どもの感覚からすれば、料金の問題ではないのかなと、必要になっている方が今のところは少ないのかなと、どうにかして自分の足を確保しているのではないのかなと、そういうふうにつえざるを得ない部分があります。今年度もそこはやらせていただきまして、周知の仕方も各戸に今回は入れさせていただきました。まだ必要なところがあれば、もう少し周知の方法を考えて乗っていただくような手立ては考えていきたいと思っています。

参加者 9 ある人は子供がいても実家に住みたくないということで、県外に出ております。奥さんが先にお亡くなりになり、最後は子どもに引き取られて県外で亡くなりました。その前に私の家と土地は、お世話になった市に寄付するのでお使いくださいと言ったら、日光市ではないのですが受けてくれませんでした。受けてくれない理由は分かりますが、使い道がないことだと思います。維持管理が大変なことだと思います。不動産屋にお願いをして更地にして、誰かがそこを買ったのではないかと思います。そういう例もあるのですが、私は日光市に住んでいる高齢者の友人がいますけれども、子供は県外で生活して、奥さんに先立たれて男 1 人で生活をしているので、何かの時にはすぐに電話をなさいと言って、私もそれなりにお手伝いをしているのですが、施設にはお世話にならないで、できるだけ自分でやると、自分でやれなくなったら子供 2 人は県外なのですが、娘のところがいいと言っています。せっかく自分で働いて住宅を持って日光市で子育てしたのに、子供はこちらに戻っては来ないで県外に住んでいるといった時に、できるだけ私は言葉をかけて、何かの時は交流しているのですが、やはりそういうような方の空き家はいくつかありますので、草が伸びきっているのが分かります。最終的に私は、ここに生まれ育って一人前になった日光市民が、色々な関係があるでしょうけれども、自分が育ったところ、親がつくった家に帰って来ないというのは、非常に寂しく思います。それは今後の市政の大きな課題だと思います。市長の市政方針を私は初めて読みましたけれども、この 3 つの柱を着実に

おやりになって、やはりここに生まれてここに住むと、そういう教育も含めて、今日の課題として人口減少の問題を大きく取り上げていただいて、そういうことが私は大事ではないかと、今、つくづくと思っています。市長の3つの柱を頑張っておやりになっていただければありがたいと、それがまた人口減少の歯止めにもなると思います。誇れる日光市のまちづくりだと思います。

市長 ゆっくり色々なお話を伺うことができ、非常にありがとうございました。最後に言おうとしたことを、今、全部おっしゃってくれたので、まさにその部分、究極の人口減少の歯止めは、10年・20年かかるかもしれませんが、今、日光に育っている子どもたちが、日光に帰ってどれだけ思ってもらえるか、世界に羽ばたいて活躍する子どもたちがいることも当然だと思うし、日光で育った子供たちが東京で働いて納税者となり、市に対して地方交付税が配分されるということもあります。一人でも多くの子供たちが日光に残って欲しいなと思いました。

自分は20年前にこちらに家を建てましたが、どうしてここに家を建てたのか選択の理由を考えると、会社の資材置き場が隣にあったこと、身近な方がその土地を持っていたこと、自分の父が落合出身であり、孫がじいちゃんの通った学校に行くのも喜ぶかなとか、のどかな田園風景のなかで子どもをのびのび育てたいとか、そんな気持ちで家を建てました。

最近、同級生に、近くに子どもが住む土地がないかたずねられ、あるところを紹介しましたところ、そこに決まり、もう少しで子育て世代の方が家を建て始めるということになっています。何がきっかけでそこに住むようになるのかは、色々な選択の理由があると思います。例えば住んでいる方たちが、のどかで、のびのびしていいところだとみんなが話をしていれば、あのラーメン屋おいしいからとお客さんが来るのと同じように、人が人を呼ぶという効果が表れるのだと思います。地域のいいところを見て、常に自慢するとか外に向けて発信していると、Aさんが引っ越してきて、またAさんがいいところだと言っていると他の方につながっていくような、地域の人口減少という事をみんなが意識して、人を呼び込んでいくようなこともできるのかなと思います。

私の心、気持ちを最も身近で感じているのが、部長たちだと思いますが、何が無駄で何が無駄でないかの判断基準は非常に難しいが、我々は皆様の税金で生業を立てているところもあり、まずは役所の中で無駄な会議はやめようというふうに最初スタートしました。時間ばかりをかけて会議を行っても、その会議が本当に市民のための会議なのか考えていくと、もう少し省いていけるものは省いていき、そこでできた時間を他のことを考えて、知恵を使っていこうとまずは申し上げました。まずは中の改革、職員の意識改革を行いながら、住民サービスは今までと同じ水準を維持または拡充をしていきたいと考えております。

デマンド交通については、自分も細かいところまでは理解しきれていないというのが正直ありますが、民間の鉄道・バスの事業者、民間公共交通の民営圧迫にならないという制約があるのも事実、ただしその制約を全て守っていたら、住民の皆様の思いどおりにもならないのも事実なんです。今度、国も少し方向転換している部分もあるので、よく研究して各地域にあったデマンド交通、公共交通の在り方を、庁内で掘り下げて議論させていただきたいと思っています。

自分が言っている日光プライドという言葉は、日光愛、郷土愛、地域アイデンティティという言葉に置きかえられます。是非、まずは落合プライド、落合の郷土愛というものを皆さんで共有していただきながら、この地域の子どもたちに伝えていく、若い世代と共有していく、併せて合併して大きくなった

日光市、これも今の落合の子供たちに体感して欲しい、足尾のこと、栗山のこと、湯西川のこと、藤原・鬼怒川のこと、日光のこと、大きくなった日光市の子どもだということ、落合プライドと同時に日光プライドをもって一時はここから出て羽ばたいてもらって、そしてできるものなら帰ってきていただけたらいいなと思っています。究極の人口減少を食い止める方法は、最後はそこに行きつくと思います。

是非、皆さんと協力して、世界に冠たる日光を次の世代に継げていけるように頑張っていきたいと思っています。引き続き、更なるご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、ご挨拶にかえさせていただきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。